

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

公民館報 まつもと

発行
2022
7/30

松本市立博物館分館
松本市 四賀化石館
MATSUMOTO CITY SHIGA FOSSIL MUSEUM



関連記事6面

シリーズ デジタル化 〈第3回〉

豊かで快適な未来へ

「デジタルシティ・松本」に向かって進んでいる松本市のデジタル化。そこにどんな便利な社会が待っているのでしょうか。

デジタル化の定着は慎重に

これからは市役所窓口での諸手続きも、あえて出向くことなく、混雑を避けて自宅での簡単な操作でできるようになります。しかし、現時点では誰もがスマホやパソコンを持ち、活用ができるというわけではありません。

松本市では「誰一人取り残さない」ように、インターネットなどの情報技術を利用できない方への対応を考え、公民館での講習会なども実施しています。しかし、習得の機会を設けるだけでは根本的な解決にはつながりません。また、十分にICT(情報通信技術)を活用している世代であっても、顔が見えないやり取りに不安を感じている方もいるようです。人との温かみある関わりを残す工夫と、孤立化しない配慮が望まれます。



スマホ体験講習会(7月8日白坂地区公民館にて)
講習会は毎月2回、各地区公民館で開催されます。

適応性が高い子どもたち

松本市では市立小中学校に1人1台の学習用端末を整備し、令和3年度からは、鉛筆やノートなどと並ぶ「新しい文房具」として端末を活用しています。子どもたちは大人以上にデジタル技術を使いこなす、将来的に情報社会に対応できる力を備えた人材になることが期待されます。

まだ課題もあるかと思われませんが、今後「教育のデジタル化」が進めば、一人ひとりの個性を尊重する学びの実現も可能と言われています。それは「デジタル化」のメリットであり「豊かな生活」にもつながることでしょう。

人にも社会にも
価値あるデジタル化

百回のメールのやり取りよりも、わずかな時間でも顔を合わせての会話に大きな意味があることを私たちは知っています。「デジタル化」の推進によってもたらされる快適な未来はもうすぐそこにあり、社会課題の克服に向けて必要なことであることも確かです。その中で、一人ひとりが豊かさを感じられるまちを目標し、人と人とのつながりを大切にした「デジタルシティ・松本」でありたいものです。



少し先のデジタルの担い手(旭町小学校)

わがまち自慢(四賀地区) バラ公園
新設の公園では、広い緑の空間のなかで
たくさんの方々に囲まれて

種類のバラを手放すことを知り、譲り受けたものです。

市営四賀球場の西駐車場下側、四賀支所の北東の高台にバラ公園があります。約千㎡の庭園に300本あまりの色とりどりのバラが咲き誇り、アーチや西洋風あずまやにベンチなどが配置された、自然を大切にしたいイギリス式庭園風です。

バラの苗は四賀市営球場の緑化管理をしていた会社で管理をしてもらいました。庭園整備・植え込み作業などたくさんの方の協力を得て、今年の開花を迎えました。

バラ園の誕生は、2020年地元有志の『四賀元氣プロジェクト』が計画しました。植えられたバラは、寿豊丘の百瀬茂さんが育てた多くの

四賀地区には、国内最大級の福寿草の群生地があります。プロジェクトメンバーや住民はバラ公園とともに『花の里』として四賀が知られ発展してゆくことを期待しています。



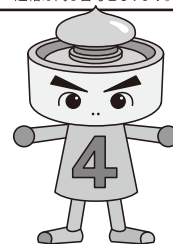
来年はもっとあでやかに皆さんをお迎えします



令和4年7月1日 現在
総世帯数 8,130世帯
総人口 17,406人
男 8,717人
女 8,692人

芳川地区
地域づくりセンター
☎58-2034
芳川出張所
☎58-2034
芳川公民館
☎58-2034
芳川福祉ひろば
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、
芳川出張所、芳川公民館への
連絡は同じ番号となります。



芳川キャラクター：シカセギン

よしかわスポーツひろば開催



楽しく身体を
動かせる機会
の提供に務め
ていきます。

テニス、マレットゴルフなど、76人が様々な種目を楽しみ、親睦を深めました。会場では、種目の説明に耳を傾け、チームで声を掛け合い、楽しむ姿が印象的でした。

今後も体育協会と公民館では、誰もが

緑化推進協議会の総会と植栽

6月11日、芳川地区緑化推進協議会の総会が地域づくりセンターで、各町会から一人ずつ8人とスタッフ等11人が参加して開催されました。

総会で議案を可決した後、全員で、芳川体育館前の花壇に、約60株の夏秋用の花苗を植えました。

四ヶ堰に興味深々

芳川小学校4年生が四ヶ堰について、座学とフィールドワークで学びました。

密を避け、2クラスずつ座学をし、翌週には、四ヶ堰円筒分水まで歩き、サイフォンの原理を利用した分水の実際を確かめました。

座学では、昨年度作製した「わたしたちの芳川」を用いて、百瀬三七が、江戸から明治へめぐるしく変わる中、スマホも車もない時代に、時には五日がかりで伊那県



次回10月下旬に植え替えるまでの間、皆さんの目を楽しませてくれることでしょう。



の役場にでかけるなど、芳川に安定的に水を引くために、多くの困難を乗り越えて四ヶ堰を築いた歴史を学びました。フィールドワークでは、円筒分水から耕作面積に比例して水が流れて行く様子に関心していましたが、もっと驚いたことは、大量のゴミが沢山流れ着いていたことです。「なんでこんなにゴミがあるの?」「きれいな川を守るために、ゴミのポイ捨てはだめだよ」と環境を守る大切さについても学ぶ機会になりました。



芳川小学校では、毎年4年生を対象に、芳川の名前の元になった四つの村の川Ⅱ四ヶ堰の歴史を学ぶ機会を設け、郷土愛を育む機会としています。

出前講座、

シニア短大…

学びの場が
平常に

コロナ感染が終息傾向にあることから、講座も平常に戻りつつあります。

5月26日と6月8日には、野溝公民館で出前講座とふれあい健康教室、6月23日と30日には、多様性と人権をテーマに、芳川公民館でシニア短期大学が、7月14日には、村井町第一公民館でふれあい健康教室が開催されました。

町内公民館での出前講座には、芳川公民館は遠くてちよつと、という方も含め、身近さから、30人を超える参加者がありました。柏澤公民館長の講話や百歳体操を楽しみ、保健師の熱中症になら



ない備えについて学びました。何より、外出機会が減る中、久しぶりに会つての旧交を温めることが出来て、参加者の笑みがあふれる機会となりました。

今後とも出前講座に積極的に出かけますので、公民館にお声かけください。

いざっ！
松本市街地へ

7月6日、12日、13日と計3日間、福祉ひろばと公民館共催でふれあいウォークを開催しました。今回のテーマは「松本城・中町蔵通りと源智の井戸・あがたの森周辺文化施設」と3本立てでした。



当日は、公共交通機関を利用し、各々松本駅に集合、3日間異なる行程で様々なスポットを巡りました。

参加者から「市街地にこんなところがあったんだ」など普段歩かない場所を歩くことで新たな発見をした人も。

旧市街地には、知られざる魅力がまだまだあります。たまには電車で街中へふらりと行くのもいいですね。

芳川の今昔物語

村田 正幸

第39話

旧芳川小学校とタキソジウム

明治44(1911)年11月25日、芳川尋常高等小学校が新築し、開校式が挙行された。昭和49(1974)年5月に現在地に移転するまで、改修・増築しながら使用されていた。旧体育館・中学校舎・南校舎と大正初期に植えられたタキソジウム(二列葉松)が見え、校舎の周辺には家が建ち始めている。

小学校の移転後には新体育館と東校舎が残されて、昭和51(1976)年9月12日に芳川公民館・出張所が移転、昭和56(1981)年には児童センター



撮影：1970年頃



撮影：2022年5月

や児童遊園が整備されて、他は売却となった。平成5(1993)年3月に公民館・出張所が移転し、跡地は売却された。

村井駅舎建築中

Vol.3



6月下旬、大きなボーリング重機が設置され、基礎工事が始まったと思われま。楽しみです。

たちばなし

毎年恒例の「梅雨」今年はどこへいったのやら…

6月と言えば月の半分は雨というイメージが強いのですが、今年は6月半ば

くらいから暑い日が続きました。と言うより35度を超える猛暑日があり、所々で熱中症で倒れる人もいました。今年の水不足が予想されますが、そうなるにまづ大変なのが農家の方々。作物には水は絶対不可欠です。トマトやナス、キュウリなど夏の野菜に色艶が悪いとか形が変などの影響が出ています。

次に懸念されるのが電力。日本の水力発電は全体の7・7(8)程度ですが、今年は電力需給ひつ迫注意報が出たりしています。水不足では発電できない恐れが出てくるのではないのでしょうか？

2年半以上もコロナで我慢を強いられてきましたが、まだまだ油断はできないし、さらにウクライナ情勢など含めた物価上昇もあり各家庭にかかる負担も大きくなってきました。私にどうこうできる事ではありませんが、日本に、世界に未来はあるのでしょうか？と心配になつてしまします。

視点

⑦ 学生と住民のたまご場
信州大学
ロッピーキ

たまご場ロッピーキ

信州大学の学生グループ「ロッピーキ」は、大学近くにある空き家を学生が中心になってリノベーションし、学生や住民、誰もが集える、シェア・コミュニティスペースづくりに取り組んでいます。活動は2016年から始まり、今年6周年を迎えました。現在は、月曜日と金曜日を中心に、誰でも気軽に使える「OPEN DAY」や映画鑑賞会などを企画しています。

また、ロッピーキは場所の活用を目的に、貸しスペースとしても利用ができます。ミーティングや作品の制作、フリーマーケットなど、さまざまな学生グループがロッピーキを活用しており、学生グループの活動拠点になっています。

「ロボでつながる」

他団体とのコラボにも積極



訪れた人の足跡「ロッピー木」

的です。代表の鈴木七海さんは「面白いことをやっている団体、面白い人をロッピーキに呼んで、一緒に学びたい」と話し、コラボがきっかけでそれぞれの活動の輪が広がることを大切にしています。

先月には、「ゆうぐれの箱」と題し、古本屋、珈琲屋とコラボして誰でも気軽に参加できる読書会を行いました。コラボ企画を通して、ロッピーキが他の団体の活動を紹介する場になり、学生同士の新たな交流の機会を作り出します。

地域に灯る明かり

暗くなるにつれ、ロッピーキからの漏れ光が通りを照らします。鈴木さんは「通りに電気が点いている家があると地



読書会の様子、使い方は人それぞれ

域に活気が生まれる」と述べ、ロッピーキが地域に活気を取り戻す明かりになることを目指します。

ロッピーキは、学生、住民関係なく誰もが利用できる場であり、過ごし方も人それぞれです。何気なく集まった人たちが交流しつながることで、ロッピーキがその人の居場所になり、多様な灯りを発します。

令和4年度 新任公民館職員

● 公民館長

中央 石川 善啓
第三 武井 保典
城北 小岩井 成人
大手 遠藤 彰
和田 萩原 良治
安曇 大野 修

● 公民館主事

中央 酒井 謙一
第一 朝倉 光貴

令和4年度 館報全市版編集委員

● 第一

山内 敦子
上條 恒嗣
小澤 佐智浩
吉見 隆男
城 北 小澤 佐智浩
中 央 吉見 隆男
安 原 大和 靖
城 東 浅田 達夫
白 板 高山 剛正
庄 内 大野 彰孝
鎌 田 南雲 多榮子
松 南 藤森 俊男

● 第二

栗田 幸信
古謝 彰貞
三澤 孝吉
史門 大
白 板 片桐 史門 大
庄 内 小林 史門 大
中 山 宇治 樹
神 林 丸山 貴大
笹 賀 矢口 竜也
奈 寿 竹村 夕馬
川 奥原 美鈴

● 第三

島内 川上 弘
中山 真次 敬子
上條 貴志子
島 立 上條 貴志子
新 村 山口 茂
和 田 塩原 真由美
神 林 藤澤 良彦
笹 賀 窪田 守
寿 台 上平 貴明
松 原 江藤 弘子
岡 田 曾根 原 忠芳

● 第四

入山 辺 大澤 深志
里山 辺 浅海 智広
今 井 中村 朗
内 田 酒井 洋
本 郷 杉江 夏実
四 賀 松村 京子
安 曇 赤穂 武美
梓 川 森 鉄雄
波 田 古田 豊樹
大 学 生 工藤 太陽



通勤途中に見る北アルプスで好きな景色は雪の北アルプス。降り始めの頃の姿から、だんだんと雪が増え姿を変えていく北アルプスの変化を見るのが日課のようになり、毎年この雪はいつまであるのか? と思いつつ職場へと向かう▼冬の晴れた日に雪の北アルプスを見ると元気をもらい「今日も1日頑張ろう!」そんな思いになる。時にはこのまま白馬まで行きたい思いになることも。そんな北アルプスの雪も少なくなってきた▼初冠雪から変わり行く北アルプスを見るのが楽しみとなり、同じようだが毎日違うように見える北アルプスを写真に収めることも。春になりひと雨ごとに雪がなくなっていくのを見ると寂しくなるが、里では雨でも山は雪ということもあり雪が増えることも▼そんな北アルプスも冬の山から夏の山へと変わりつつある。まだ山には雪はあるが梅雨が終わる頃にはなくなってしまうだろう。寂しいものがあるが夏の北アルプスは冬の北アルプスと違った姿を見せてくれるので飽きることはない。

おこひる

通勤途中に見る北アルプスで好きな景色は雪の北アルプス。降り始めの頃の姿から、だんだんと雪が増え姿を変えていく北アルプスの変化を見るのが日課のようになり、毎年この雪はいつまであるのか? と思いつつ職場へと向かう▼冬の晴れた日に雪の北アルプスを見ると元気をもらい「今日も1日頑張ろう!」そんな思いになる。時にはこのまま白馬まで行きたい思いになることも。そんな北アルプスの雪も少なくなってきた▼初冠雪から変わり行く北アルプスを見るのが楽しみとなり、同じようだが毎日違うように見える北アルプスを写真に収めることも。春になりひと雨ごとに雪がなくなっていくのを見ると寂しくなるが、里では雨でも山は雪ということもあり雪が増えることも▼そんな北アルプスも冬の山から夏の山へと変わりつつある。まだ山には雪はあるが梅雨が終わる頃にはなくなってしまうだろう。寂しいものがあるが夏の北アルプスは冬の北アルプスと違った姿を見せてくれるので飽きることはない。

歴史探訪

探ろう松本29

いつの時代も重要な拠点

四賀地区

交通の要衝

四方を山に囲まれ、会田川・保福寺川が流れる四賀地区は、古くから嶺間と呼ばれ、縄文時代中期からの遺跡が発見されています。朝廷により東山道・錦服駅が置かれたと言われており、交通の要衝として栄えました。

鎌倉時代には伊勢神宮御料地である会田御厨が置かれ、小県地方から進出した会田氏が地頭となりました。虚空蔵山を中心に山城を造り、長きにわたりこの地を治めました。

江戸時代には善光寺道(北国西脇往還)や江戸道(保福寺道)が通り、刈谷原宿・会田宿・保福寺宿が置かれ、江戸中期以降は幕領に編入され、明治を迎えました。

明治初期、27カ村からなっていました。明治22(1889)年の町村制施行により、錦部・会田・中川・五常の4カ村



虚空蔵山の斜面に建てられた岩屋社

となりました。

昭和30(1955)年、町村合併促進法により合併し、4カ村の合併を賀すという意味を込め「四賀村」と名付けました。

文化財の宝庫

昭和11年に発見されたクジラの化石が穴沢に現地保存され、化石館には1300万年前のマッコウクジラの完全化石が展示されています。

幕領であったため、廃仏毀釈の影響を受けず、寺院や仏像が数多く現存します。鎮守神28社、寺院10、小祠・社殿約500、堂7などがあり、石造文化財においては290基にもおよびます。

会田富士と呼ばれる虚空蔵山には、かつて海で浸食された砂岩の岩肌に、社や摩崖仏が作られています。会田にある中世の大規模遺構「殿村遺跡」など、この一帯に残る多くの宗教施設から、一大信仰空間であったと考えられます。

新しい風

四賀地区は、人口4139人1899世帯(7月1日現在)、27町会で構成されています。

都会から若者の移住希望も多く、空き物件待ちの状況です。多くのアーティストも移り住んで来ました。新旧の住民が集う「結ぶ市」も盛況です。新しい文化の拠点の、これからが楽しみです。



大規模な「大結ぶ市」は年4回開催

松本平の野鳥たち



ガビチョウ (2021.10 松本市・里山辺 写真提供:信州野鳥の会)

近年各地で分布拡大しており、松本市内でも高密度で観察されている鳥類の「特定外来生物」です(2005年に指定)。大きさはスズメの倍くらい。藪を好み、姿を見る機会は少ない。留鳥化し1年を通じてかなりやかましく囀り、何の鳥の声?との問い合わせが多い。

表紙について



絶景の峠道や練習コースなど、松本市はオートバイを楽しむ環境に恵まれています。無理せず急がず、風を切って走った後は、お気に入りの場所です。

(撮影 2022.6.19 松本市四賀地区)